

第18回 文化・産業のまち部会 会議録

1 開催日 平成29年11月22日（水）

2 場所 新見市役所3階 第5委員会室

3 出席状況 出席8名

部会長	森田 寿	出席	副部会長	水地 秀壽	出席
委員	森岡 繁信	出席	委員	今田 一成	出席
委員	三上 雄二	出席	委員	多賀 紀征	出席
委員	逸見 孝明	出席	委員	田原 裕之	出席

4 事務局出席者

総務部協働推進課 2名

5 傍聴者 なし

6 議事内容

1 開会

2 あいさつ

○部会長挨拶

3 協議

○「教育・文化」について、意見交換した。

- ・学習環境でいえば、1クラスの人数はある程度の数が必要だと思う。
- ・道徳など幼少期から人づくりをしていくことが大事で、各地でイベント開催されているが、継続していくことが大事である。
- ・高校の学習環境でいえば、以前より生徒数が減ったので、個別指導が可能になった。あいさつがよくでき、ボランティアも自然にできるし人に優しい子も増えたと思うが、現状に甘んじているような気がする。
- ・ふるさとを想う気持ちの醸成には、地域の歴史・文化を伝えることが大事である。
- ・学力だけでなく、道徳力など人間力を兼ね備えた「新見ブランド」の子を育てることが大事である。
- ・いじめや児童虐待などがクローズアップされている。
- ・少子化で子供が大事にされている。部活の土日の外部指導者の導入が拡大できればと思う。

- ・教育の目的は人格の完成を目指すことで、社会に役立つ人間にすることが大事である。
- ・部活動などでは外部指導者に入ってもらい、学校現場にゆとりを持たせ、本来取り組むべきことにしっかり取り組める環境作りが必要である。
- ・食育や環境学習などで自身が講師となって教えている。教科書以外で、見て、触れて、勉強することも大事である。
- ・ゆとり教育が終わってだんだん良くなったと思う。規律の中で団体生活を学び、人間力を高めることが大事である。
- ・講演会などを通じて保護者に理解してもらうことも大事である。公民館長などがコーディネーターとなり、学校支援ボランティアとしてして派遣するシステムがあり、しっかり活用してもらうことで、先生にも余裕が生まれるのではないか。
- ・先生の立ち振る舞いを見て子は育つと思う。
- ・新見公立大学の教授の話聞く機会があったが、人間形成について、幼少期の教育が一生を左右するとのことであった。
- ・テーマを絞って「学校への支援策」についてまとめることができればと思う。
- ・教育に力を入れている「和気町」の視察ができればと思うので事務局で調整をお願いしたい。